



## 下関に人工島が出来る！

なぜ私たちは立ち上がったか……………	森川万智子…	4
私にとっての人工島……………	田口 美香…	6
イルカだってイラン人工島……………	重兼 久子…	7
なして？ 軍艦島……………	K I D…	8

ありがとう！ 鉄連の七人の輪!!……………	斉藤 千代…	3
自らを装う……………	高橋 芳恵…	10
<連載>働き続けた40年……………	辻 和子…	11
女が働けなくなる労基法改悪の動き……………		16
女の講座・女のつどい……………		2

今月の編集は〈あごら山口〉 114号 400円



●女の講座・女のつどい

- | 日         | 時     | テ                                   | マ | 主 | 催 | 者 |
|-----------|-------|-------------------------------------|---|---|---|---|
| 12月11日(木) | 12:18 | 国家秘密法に反対する市民ネットワーク交流会               |   |   |   |   |
| 13日(土)    | 12:18 | 歌い飛ばそう! 国家秘密法12・13市民パレード            |   |   |   |   |
| 14日(日)    | 13:19 | 本と著者に出逢う集い 門 瑠子・山下智恵子ほか(入海BOC)      |   |   |   |   |
| 15日(月)    | 14:13 | グリナムの女たちのビデオを見る会 十時由紀子              |   |   |   |   |
| 16日(火)    | 9:16  | あこらさっぽろ忘年会                          |   |   |   |   |
| 17日(水)    | 18:30 | 反原発・反基地 今、女たちが起ちあがることの意味 近藤和子       |   |   |   |   |
| 18日(木)    | 18:30 | 映画上映会「草とり草紙」(三里塚のおばあちゃんのこと)         |   |   |   |   |
| 19日(金)    | 14:13 | 講演会「しなやかに自分を生きる」伊藤ルイ                |   |   |   |   |
| 20日(土)    | 16:30 | エビから第三世界が見える スパイ防止法 尾崎秀樹            |   |   |   |   |
| 21日(日)    | 21:00 | 家族のキズナから社会が見える 村瀬春樹 045-96312421    |   |   |   |   |
| 22日(月)    | 16:00 | 男の子育てを考える会忘年会                       |   |   |   |   |
| 23日(火)    | 16:00 | スキーと温泉と新年会 一泊二日の旅(あこらさっぽろ)          |   |   |   |   |
| 24日(水)    | 16:00 | 近代女性作家の登場 北田幸恵・渡辺澄子(日本社会文学会)        |   |   |   |   |
| 25日(木)    | 16:00 | 性差・性役割・性差別 青木やよひ                    |   |   |   |   |
| 26日(金)    | 16:00 | 新春懇談会と講演 板井昭子・腰原康子ほか(日本婦人科学者の会)     |   |   |   |   |
| 27日(土)    | 16:00 | 労基法ウォッチングネット(パート)も有休とれるのヨ(パート労働連絡会) |   |   |   |   |
| 28日(日)    | 16:00 |                                     |   |   |   |   |
| 29日(月)    | 16:00 |                                     |   |   |   |   |
| 30日(火)    | 16:00 |                                     |   |   |   |   |
| 31日(水)    | 16:00 |                                     |   |   |   |   |
| 1月1日(木)   | 16:00 |                                     |   |   |   |   |
| 1月2日(金)   | 16:00 |                                     |   |   |   |   |
| 1月3日(土)   | 16:00 |                                     |   |   |   |   |
| 1月4日(日)   | 16:00 |                                     |   |   |   |   |
| 1月5日(月)   | 16:00 |                                     |   |   |   |   |
| 1月6日(火)   | 16:00 |                                     |   |   |   |   |
| 1月7日(水)   | 16:00 |                                     |   |   |   |   |
| 1月8日(木)   | 16:00 |                                     |   |   |   |   |
| 1月9日(金)   | 16:00 |                                     |   |   |   |   |
| 1月10日(土)  | 16:00 |                                     |   |   |   |   |
| 1月11日(日)  | 16:00 |                                     |   |   |   |   |
| 1月12日(月)  | 16:00 |                                     |   |   |   |   |
| 1月13日(火)  | 16:00 |                                     |   |   |   |   |
| 1月14日(水)  | 16:00 |                                     |   |   |   |   |
| 1月15日(木)  | 16:00 |                                     |   |   |   |   |
| 1月16日(金)  | 16:00 |                                     |   |   |   |   |
| 1月17日(土)  | 16:00 |                                     |   |   |   |   |
| 1月18日(日)  | 16:00 |                                     |   |   |   |   |
| 1月19日(月)  | 16:00 |                                     |   |   |   |   |
| 1月20日(火)  | 16:00 |                                     |   |   |   |   |
| 1月21日(水)  | 16:00 |                                     |   |   |   |   |
| 1月22日(木)  | 16:00 |                                     |   |   |   |   |
| 1月23日(金)  | 16:00 |                                     |   |   |   |   |
| 1月24日(土)  | 16:00 |                                     |   |   |   |   |
| 1月25日(日)  | 16:00 |                                     |   |   |   |   |
| 1月26日(月)  | 16:00 |                                     |   |   |   |   |
| 1月27日(火)  | 16:00 |                                     |   |   |   |   |
| 1月28日(水)  | 16:00 |                                     |   |   |   |   |
| 1月29日(木)  | 16:00 |                                     |   |   |   |   |
| 1月30日(金)  | 16:00 |                                     |   |   |   |   |
| 1月31日(土)  | 16:00 |                                     |   |   |   |   |
| 2月1日(日)   | 16:00 |                                     |   |   |   |   |
| 2月2日(月)   | 16:00 |                                     |   |   |   |   |
| 2月3日(火)   | 16:00 |                                     |   |   |   |   |
| 2月4日(水)   | 16:00 |                                     |   |   |   |   |
| 2月5日(木)   | 16:00 |                                     |   |   |   |   |
| 2月6日(金)   | 16:00 |                                     |   |   |   |   |
| 2月7日(土)   | 16:00 |                                     |   |   |   |   |
| 2月8日(日)   | 16:00 |                                     |   |   |   |   |
| 2月9日(月)   | 16:00 |                                     |   |   |   |   |
| 2月10日(火)  | 16:00 |                                     |   |   |   |   |
| 2月11日(水)  | 16:00 |                                     |   |   |   |   |
| 2月12日(木)  | 16:00 |                                     |   |   |   |   |
| 2月13日(金)  | 16:00 |                                     |   |   |   |   |
| 2月14日(土)  | 16:00 |                                     |   |   |   |   |
| 2月15日(日)  | 16:00 |                                     |   |   |   |   |
| 2月16日(月)  | 16:00 |                                     |   |   |   |   |
| 2月17日(火)  | 16:00 |                                     |   |   |   |   |

# ありがとう！鉄連の七人の輪



勝・訴・お・め・で・と・う

一字一字を書き込んだ七つのかわいいリンゴが並び、七本のローソクに灯がともった。が、鉄連・七人の女たちを祝う熱い拍手の中で、佐々木元子さんは、どこか浮かぬ風情に見えた。

「一勝一敗一引き分けという感じです」

「基幹職と補助職に分けるコース別賃金は憲法十四条違反」と、六十九万円の支払いを鉄連側に命じながら、「コース別採用や、司書から事務職への配転は、八年前の当時としては公序良俗に反する」とまでは言い切れない」とした判決に、松岡三郎明大名誉教授は、「憲法にまで踏み込んだ画期的判決の割には法的な救済が不十分」と、企業側にも働く側にも「よい顔」を見せるにとどまった判決の本質を評した。あれほどの長い闘いと思うと、松岡氏の指摘どおり判決は不満足なものではあったが、胸の内から熱いものがこみあげた。

ご苦労さま！ ありがとう！！ それだけを言いたかった。

現在の勤務先を訴える——それはどんなに至難なことだったろう。欠勤遅刻はもとより、毎日の勤務ぶりにまで人一倍の監視の目が光る。その中を耐えぬいた八年の辛さは、他者には到底推測できないものと思う。その辛さを耐えに耐えた重みが、ついに「コース別賃金は憲法違反」を勝ちとったことを、働く女の一人としてどんなに感謝しても足りない気がする。

告訴に踏み切ったとき、彼女たちはまだ二十歳そこそこ。「おかしいぞ」と感じた英知と、どんな圧力にも屈しなかった勁さが、均等法元年の最大の収穫を獲得したのだ。

しかし鉄連側は控訴、彼女たちも配転については控訴するという。気の遠くなるような日々がまたも続く。彼女たちを支える一助に、私たちも、日々の差別に抵抗していきたい。「すべての差別は公序良俗に反する」という高裁勝訴を勝ちとれるかどうかは、私たち自身の責任だ  
と思う。

(斉藤千代)

# なにしてる？人工島

なぜ私たちは  
立ち上がったか

森川万智子

「人工島」に関する事柄が下関市の公報やマスコミに登場して久しい。

下関市が港湾都市として繁栄するために、大型船を着岸できる港を人工島方式で、と練った構想から今年で十五年だそうである。下関青年会議所は、その後国土庁に手づるを求め、八二年に国土庁は「大規模な埋立による人工島を」という構想を出した。八三年には運輸省が「国家プロジェクトとして、秋田・清水（静岡県）・下関（山口県）、大村（長崎県）のいずれかに人工島を」という計画を経団連鋼材クラブの音頭とりで出している。

さらに、下関市を対象地として、運輸省・JAPIC（日本プロジェクト産業協議会）国

家的プロジェクトを請負う団体）で顧問に経団連副会長や東京都の顧問などを就任させ、「開発」至上の計画を次々と打ち出している（表参照）。そして、まるで獲物を狙う野獣のように次々と「下関北蒲沖合人工島」構想を発表するに至って「人工島」は「夢の島」としてイメージ優先で次第に下関市民の中に既成事実化してきた。

昨年、運輸省は前述の四つの候補地を清水市と下関市に絞った。にわかに事は動き出してきた。市議会は本年三月、調査推進の議決。下関市は今年度二千六十五万円の予算を組んで実現可能性調査に乗り出した。たてまえは民間組織ということになっている下関人工島構想推進期成会（市の予算から五百万円の補助金が出されている）も八月に発足。

下関市は今や、官民あげて「人工島」実現に向けて「まっしぐら」といったと

ころである。

市当局はいう。「二十一世紀を展望した国際流通拠点都市づくりが下関市の基本的方向

人工島の利用構想

区 分	面 積	説 明
	h a	
港 湾 関 連 施 設	200	コンテナ埠頭 殺物廃蓄基地 エネルギー基地 既存施設の一部移転
海洋開発関連施設	50	
都市・文化機能施設	100	学術研究センター 業務・商業施設
観光、レジャー施設	100	ヨット・レジャーボート施設等
コミュニタ空港	50	
廃棄物処理区域	100	
道路、公園、緑地	100	
合 計	700	

であり、その基礎整備が人工島である」と。下関という、古来「港」としての位置を持ち続けたこの街を、より「港」として開発し発展させようというのだ。

市は現在、運輸省とJAPICの案を併せたものを最新の青写真としているが、それによると人工島は七百ヘクタール、五万人が居住する下関市彦島の四分の三もの広さで、その使用目的は表のとおりである。一兆円の仕事なのだそう。

私たちへあごら山口は、人工島のことを気に懸けてきた。「イヤな感じの人工島」に誰も反対しないのかな、と思ってきた。七月のダブル選挙前には山口県の全立候補予定者にアンケートを出し、「人工島建設をどう思うか」との問いも加えた。

そして「ちょっと待ってよ。人工島っていったい何？」と思う者たちの会へなして？人工島の会Ⅴが六月に発足すると、へあごら山口のごそっくり参加した。私たちの例会の日（第一日曜）がへなして？人工島の会Ⅴの例会日となった。

## JAPICのプロジェクト

### 自主提案プロジェクト

- (1) ロイヤルセンター構想  
(四谷駅周辺開発)
- (2) 空中橋
- (3) 大都市圏幹線道路地下化の提言  
(東京環状7号線のケーススタディ)
- (4) 東京湾外かく環状道路
- (5) 関越総合水資源開発
- (6) 近畿圏水資源対策  
(奥ひわ湖総合水資源開発計画)
- (7) 北九州水資源対策

### 官公庁、団体につながるプロジェクト

#### ○中央

- (1) 東京湾環状道路促進
- (2) 東京湾横断道路促進
- (3) 千葉県幕張地区新都心開発構想
- (4) 神奈川県三浦市ソフトエネルギーモデル都市構想
- (5) 商業地域再開発一銀座再開発
- (6) 汐留貨物駅跡地再開発

#### ○地方

- (1) 関西新国際空港
- (2) 京阪奈学術研究都市開発
- (3) 中部新国際空港（愛知県）
- (4) 国際産業文化ゾーン（三重県）
- (5) 国際流通加工基地（三重県）
- (6) 関美濃物流センター（岐阜県）
- (7) 東濃産業共同研究都市（岐阜県）
- (8) ポートアイランド構想（広島湾）
- (9) 大分アジアポート構想
- (10) 下関北浦沖合人工島構想（山口県）
- (11) 南勢町シルバーホープビレッジ・パカンス村計画（三重県）
- (12) 棚倉町スポーツ・レクリエーション施設整備計画（福島県）

なして（どうして）私たち市民の一人ひとりが必要としない人工島を作ろうとするのか。

なして北浦の海の上にエネルギー基地、穀物備蓄基地がいるのか。

なして人工島の上に空港なんか作ろうとするのか、

なして何千年、何万年も続いた漁民の生きる場を壊そうとするのか。

九月には市議会に対して「人工島構想推進事業の中止を求める陳情」と、市議会議員全員へアンケートを実施。十月には「市・県・国から委託を受けた専門家による『実現可能性調査委員会（第一回目）調査内容とその経過の公開を申し入れ』」だが、会は全くの密室審

議。

私たちの会は全くオープンだし、特にへあごら山口Ⅴの女たちはミューハーブりを発揮している。「市民に対して説得力のある反対理由が必要だ」と誰かが言えば、「あら、説得力を比べるなら市当局のいう『特定不況地域の汚名返上、景急浮揚のために人工島を』のほうがよくばど強いわよ。『あたしがやらんから作らんでよい』、でいいんじゃない？」ってな具合である。自分たちの思いを込めた『なして？通信』も発行して、誰彼なくバラまいている。例会、学習会はもちろん公開だ。友人の女性たちへ「人工島」のことを話して「ああ、できるらしいネ」と、半年前の

私と同じく具体的には何も知らない人ばかりなのだ。知らないうちに、知らない所で私たちの生活が変えられてしまうのが怖い。一人の生活者としての意見を、できるだけ多くの人へ伝えて仲間を増やし、行政へ向かってもキチンと主張してゆく必要がある。

市役所の市長公室へ行った時、人工島担当の課長がいみじくも言った。「まさに、なにして？人工島」なんですよねえ。造船所はほとんど人員削減。二百カイリで遠洋漁業もダメ。下関の地盤は沈下する一方です。下関の三方を海で囲まれた立地条件を考えると、やっぱり港で生きてゆくしかない。海で生きてゆくしかない。だから、人工島なんです」。

私たちも本気で考えなければなるまい。特定不況地域をどう生きるのか。三方海で囲まれた下関でどう生きるのか。

本州・四国の三つの架橋工事が済むと、日本の鉄とセメントが余るのだそうだ。内需拡大のかけ声は与野党両方から出されている。



## 私にとっての人工島

田口 美春

北浦沖合人工島構想——突然、浮かび上がった活字の前にして、私は、青い海にボッカリ浮かぶ ひょっこりひょうたん島のような夢の島でも造るのかしら、と、疑問を持たずにはいられませんでした。

Why? Who? How? When? What?  
なぜ 誰が どのように いつ 何を  
勉強会を重ねていくうちに、私の心のなかでそれまで幾重にも重ねられていたベールが次々と剥ぎ取られ、事の真相がはつきりして来ました。

七百五十ヘクタールもの大きさに莫大な国の予算の基に、コソテナ基地だとか、エネルギー基地だとか、関門港湾の移転、水産基地、穀物備蓄基地、等、等。いろいろな目的を並べたてたもののだといいます。

その予定地とされる所は、下関の中心地から、車でおよそ二十分ほど走った所。長門、萩へと続く風光明媚な海岸線沿いに位置します。夕暮れ時のドライブには、ちょうど

雲の合い間から海面上に注ぐ夕日の帯が、レインブラントの描くような、光と影の陰影を映し出して、ソクソクッとするような感動を与えてくれるのです。四季折々にはまた違った海の色を見せ、そして、それを際立たせてくれる空の色や雲の配置、はたまたそれらすべてを包み込む潮の香りとさわめき……。私はそんな風景とほんの十年足らずのつき合いだけど、とても気に入っています。

人工島——そもそもの言い出しっぱの下関青年会議所は、その目的を、私たちの街下関を活気にあふれた 明るく 住み良い街にするために必要である——と明言しています。そして、「人工島を核とした都市造りの運動をすすめるにあたり、一人でも多くの市民に参加してもらい、二十一世紀の子どもたちに、おじいちゃん、おばあちゃん、おとうさん、おかあさんたちが造ってくれた下関に住めてよかった、と言われるような都市造りをしたいものです」——と市の公報に記しているのです。

ちょっと聞きには、とても聞こえが良く、フムフムなるほど、とまるめ込まれそうな話術ですが、本当でしょうか。自然の美しい所に、潮の流れを変え、魚も食べられなくなる

危険性も含んだ、目的の曖昧なものを造って、果たしてそれが、下関の繁栄につながるのでしょうか。次々に目新しいものを、皆さんの投資により造ったから未来安泰、と言えるでしょうか。それでも、やっぱり人工島は必要なものですか？

私の家から歩いて十分ほどで、綾羅木という海水浴場に出ます。日差しが熱くなると、一人息子を伴って水着の上にTシャツをかぶり出掛けます。太陽と海と波と砂を、そして向こうに停泊している貨物船の「ウォーツノ」という挨拶の中で、ヘトヘトに疲れるまで遊ぶのです。私も彼も海が大好きです。そして、私は彼に、何を遺すか——ということを考えています。

## イルカだってイラン

### 人工島

重兼 文子

十二月二日午後、へなして？人工島の会（例）で下関市吉見（人工島の建設予定地、来留見瀬の近くです）にある下関水産大学校に行った。ほとんど素人の集まりのへなして？Vの会が、専門家である大学の先生にお話をう

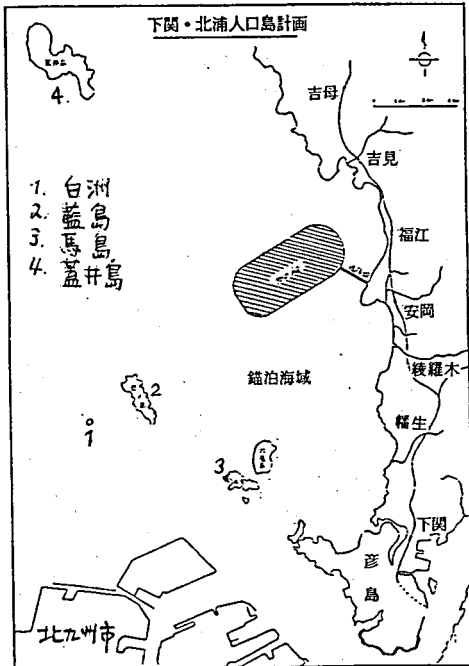
かがおうという企てだ。ウィークデーの午後、仕事を持つ人たちにはなかなか身体は自由にはなるまいと思ったところ十人が集った。という私も午後から休暇をとって参加した。

まず、鯨類研究の先生から人工島予定地付近の海域でみられる「スナメリ」というイルカの話を伺った。イルカも鯨の仲間、習慣的に大人で体長四メートルより大きいものを鯨、小さいものをイルカと呼び、日本近海で最も小さく、体長二メートル以下のイルカの一種であるスナメリをナメクジラと呼ぶ

地方もあり、両方の区切りは厳密ではない。

スナメリは沿岸に多くみられるので、人間の生活に左右されやすく、繁殖力が弱いので二年に一回、一頭しか生まれない。アジ、サバ、イカナゴ等を食べ、砂場や水深の浅い所に多い。人工島が現計画のとおり出来上

下関・北浦人工島計画



がると、海の汚染がすすむことや、浅瀬が減ったり海の流れが変わることにより魚（エサ）になってしまったもの）が変わることも考えられる。このスナメリは群をなしていないので長崎県で棍棒でなぐられたイルカたちとは違って漁師さんたちにもそれほど嫌われてはいない。写真を見せて「どう思うか」の調査には「かわいい」「何とも思わない」との答えが大部分だった。

次は、漁民の生活と漁業を関連づけて研究していらっしゃる先生のお話。

北九州市の沿岸漁業調査の結果、白洲・藍島・馬島周辺は漁場生産力が高く、藍島と馬島では（海流が違うのか？）とれる魚の種類が違うという答がでた。漁業権は北九州だが、一本釣りなら個人で漁ができるので下関の漁師も多く行っているらしい。もし人工島ができれば海の流れが変わるが、漁師は流れを利用して漁具を使うので、変化にどう対応するかが問題になると思うし、流れの変化で魚の種類も変わるから魚具も変えなければならなくなり水産生産力は落ちると思う。

また、北浦海域に多数埋められている魚礁にも大きな影響がでてくると思われる。魚礁そのものは砂浜をダメにしたり、セメント屋をもうけさせるだけ（日本の産業構造を考えると、否定することは日本の経済の否定ともなる）と思うが、短期間の効果だけはあるようだ。人工礁漁場は二メートル角のコンクリート魚礁が二・二七〇個、海底に沈めてあり、総額四億三、八〇〇万円……。セメント屋がもうかるはずだ。人工島でこれがムダになつたらどうするのか？

人工島計画は頭の中で考えられたものだから、「これからは二百カイリの漁業を守り育てることが大切だ」という自然を守る方向性

との間に矛盾がでてくる。一度壊してしまつと、元には戻せないことを考えるべきだ。

「獲る漁業から作る漁業へ（農業的発想）」という動きもあるが、海そのものは一定の生産力を持っている。それは一定の生態系が確立されているからであり、人間がそれに手を出したとしても飛躍的な増収につながるというものではない。稚魚放流等、すべてを否定はできないが、天然環境を大切にして自然と共存した漁業イコール自然管理型漁業が大事だと思う。

漁師さんたちの高齢化がすすみ、一代限りで廃業の人が多いため人工島反対運動は難しいと思うが、蓋島（ふたおいじま）などに若い漁師がいるのでつながりを持つことが必要ではないか。

二人の先生のお話を二時間近く伺い、たくさん質問も出て、「さあーっ」と気合いを入れられたようだった。

「人と海との共存」

「人と海と魚との共存」

人工島は何千年何万年と続いた図式を大きく崩すものと思えてならない。

帰りの車から見たガラス越しの冬の海は

「人工島なんていらないよ」と波をたてているようにみえた。最後まで「反対！」でガンバ！

## なして？ 軍艦島

K I D

何かの本で読んだだけの廃墟となった軍艦島と、まだ出来てもない人工島をどう結びつけるかってことは余人をもって考えがたい。私ならできるはずと思った人も思った人も思った人だが、引き受けた私も私だった。時間もないのに。

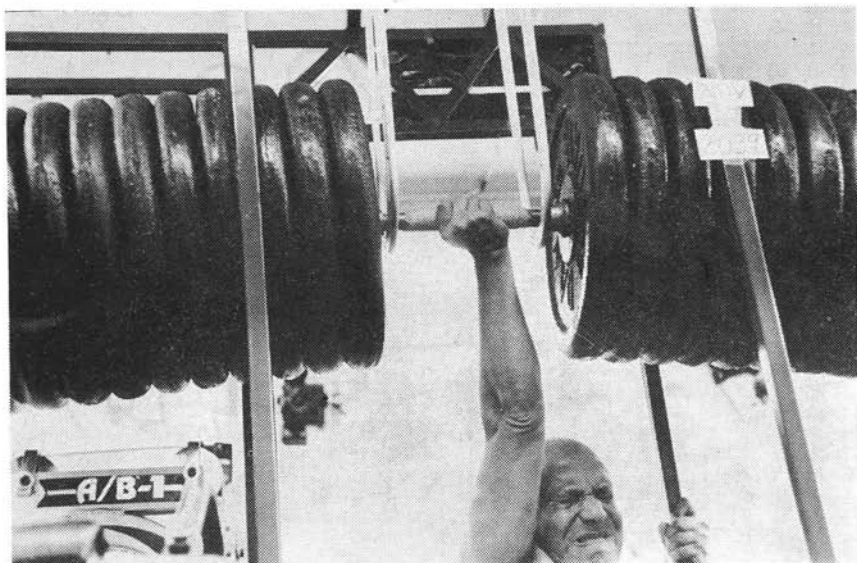
昔、日本に石炭がたくさんあった頃、それを堀らせて商売する人がいた。より安く、より多く堀るための競争があった。より高くより多く売るための競争もあった。そのため一つ一つの島が作られた。多くの堀らされる人びととその家族がそこに住まわされた。

石炭がいくら採れても商売にならなくなつたとき、その島は棄てられた。棄てられて、その島は時どき脚光を浴びることになった。『終戦』記念日のような、人々のノスタルジアのために。

11月14日の朝日新聞（朝刊）には、第二・



第三の軍艦島のこと  
 が報じられている。いわく「報われぬ国策協力」と。目には見えな  
 い無数の「軍艦島」が私たちの周りをとりまいてい  
 る。一瞬の誕生の時の華やかさと、その後の終わることのないミジメな余生。それでも島は死ぬこともできないでいる。長崎県の伊王島。そして高島。  
 軍艦島に行くことができたなら、人工島のことともつとよくわかるかもしれない。一度訪ねてみては、とお勧めいたします。ナーンチャッテ。



## 可能性に天井は無い！

自ら高い理想を掲げて、それに挑戦し、一生懸命努力していても、いつしか失敗し諦めてしまうのはなぜでしょう？ こんな疑問に端的な答えを出してくれるようなニュースが NY から入って来ました。

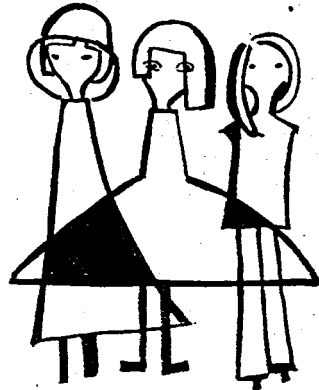
シュリ・チンモイという人が「片腕で一トン（あの小錦の四・五倍）の重量を挙げた」、これは重量挙げの選手の記録ではなく、NYの国連本部で週二回、イギリス議会で月一回、それぞれの代議員・議員・職員に公式に「瞑想」を指導している人の記録なのです。彼は、初め二十キロ前後からトレーニングを開始し、僅か一年半で世界の頂点に立ちました。「瞑想」の指導者が何故このようなことをする必要があったのでしょうか？

彼は言います。「私は神に祈り瞑想しています。これは、ただ内的な人生の為だけでなく、内的な強さによって、外的な強さを増すことができるのです。決して諦めてはいけません、現在成功していないからといって失望してはいけません。そして、魂と肉体は一諸に歩むべきなのです」と。

また、『内的強さをいったん持ったなら、安心と落ちつきを感じます。その時、私たちの不安はなくなり、強固な平和を持つのです。自分に挑戦することにより、他人との争いはなくなり、悪口を言わなくなります。そして自分の強さを証明する必要がないと感じるようになるでしょう』

シュリ・チンモイは人間の可能性に限界があるという考えが間違っていたことを明確な姿で示しました。（問い合わせ 電話 046-1-3441 湯口ビニター）  
 （写真・五十五歳のシュリ・チンモイ氏 約一トンを心の力でかかっている瞬間）

# う・衣・を・ら・自



## 今、ティーンズルックを楽しむ

私は四人姉妹の一番下である。物心ついた頃より小学校を出るまで服はほとんど母の手作りだった。既製服を買うよりは布を買って自分の家で作ったほうが安上がりだったからだ。その頃は、お祭り（六月）とお正月には上から下まで新しいものを着る習慣だった。これも、年二回ぐらいしかオシャレできなかった、ということである。母は時々四人おそろいの服を作った。私はこれが嫌で嫌で仕方なかった。少しずつサイズの違う服が四着あ

る、ということは一、番下の私は（長姉と私は七歳違い）七年も同じ服を着せられることになるのである。

中学に入ると標準服というのを着せられた。今思うと、制服ではないのだから着なくてもよさそうなののだが、その頃の私にとって標準服という名の制服にほかならなかった。それまではパンツの見えそうな短

いスカートをはいて遊びまわっていたので、あの重く長ったらしいスカートを見ただけでタメ息が出た。友人は、外出というと素敵な私服を楽しんでいたが、私は家の経済事情と姉たちが厳格な私学へ行っていたこともあって、いつもこの嫌いなセーラー服姿であった。高校はもちろん制服。学区制で金持ちの子が多かったので制服を脱ぐと皆すくく華美で、一緒に遊びに行く時などとても辛かった。

大学は地方で、すねかじりながら親・姉たちから解放されオシャレも楽しめると思ったものの、同期に女は私一人となれば、ただ目立ちたくない一心で控え目ルック。就職し、

晴れて今度こそ好き勝手にできると思ったが、七万の月給でチリ紙から家賃まですべてを賄うとなれば必要経費のみでサイフは空。とてもオシャレどころではなかった。

そして三十六歳を生きる今、リブとの出会いもあって諸々のことから解放されつつあり、やっと自らを装えるようになってきたと思う。性別、環境、服装で自分を評価されたくないし人をも評価したくないと強く思う。

リブの集会には簡素な服を心掛け、作られた女らしさにとらわれたくないという思いに逆にとらわれたりした時期もあったが、今はその日の服選びを楽しむようになった。

生活を楽しむゆとりが自らの装いの中にも表れてくるのだろうか。心理的にはリブ運動が支えになり、物理的には育児が楽になったからだと思う。しかし今でも足はカジュアルコーナーへ向く。中高生の頃のオシャレしたい欲求を封じ込められた反動だろうか。時に「母親らしくない」とか「年相応でない」とかの雑音も耳に入ってくるが、他人に不快感を与えていない限りは *Being my way*。

時々友人に「あら、それウチの子に似合いそう」などと言われ、本人はそれをまんざらでもなく思っている。（札幌 高橋芳恵）

〔連載〕③

## 働き続けた四十年（講演録）

辻 和 子

アナウンサーの試験には落ちたものの、放送局に入りたい気持ちはやみ難く諦め切れずにおりましたら、昭和二十七年にラジオ九州が婦人プランナー募集ということで毎日新聞に三行広告が出ましたので、その試験を受けて合格しました。

当時スポーツニッポンでは、部長が私に、スポーツニッポンとしては副部長クラスが回るデパートを担当させてくれておりました。ラジオなど海のものとも山のものともわからぬ所に行かずに広告部に居るよう慰留されましたけれど、「お言葉ですが、今度はどうしてもラジオに行きたいのです」と、部長にはわるいと思いながら、心はラジオ九州にとんでいました。こうして昭和二十七年に入社しました。ラジオ九州には田辺幸子さんが私の大先輩でおられましたし、ほかにも婦人プロデューサーが何人もいらっしやって、とても活気にあふれた職場でした。

最初はすぐ、学齢前の子どものための「幼児の時間」という番組を担当しまして、そのあと一年したら東京へ帰してやるという約束でした。東京で採用になりましたので東京へ帰り、東京支社で働くことになったわけですが。

私は、松岡洋子事務所で婦人民主クラブの仕事をしていたところからの影響もあり、女が変われば世の中が変わるんじゃないかと思っていましたから、東京支社での仕事を手がけるにあたってまず、女の人たちのための番組が作りたいてい、特に女の人の解放を、と願っていました。そのためには女の人同士が手をつながなければいけないんじゃないかと思ひまして、「土曜会」という女性プロデューサーの横のつながりを作りました。それも単なる親睦会でなく、土曜会で共同制作の番組を作ろうということで番組を作りまして、その中では、北海道・東北放送、仙台、東京、名古屋、大阪、九州の局を結んで一緒に作る六元放送で「女性の広場」という、これは六年間ぐらい続けて放送しました。その番組の最初のころは、亡くなられましたが『暮らしの手帖』の花森安治さんや戸塚文子さんといった方たちが私

たちに大変協力的で、しょっちゅう番組に登場して下さいました。番組が終わってからも花森さんを囲んで、「君たちががんばっていくことでこの世の中が変わっていくんだから」という温かい応援をいただいたことを想い出します。そのころ「ひととき」という欄を作られた朝日新聞の当時の学芸部長の影山三郎さんにも、とても励ましていただきました。そういう中で私は仕事を通じていろいろの方に出会うことになるのです。

ちょうど昭和二十九年の炭鉱不況のころ、ボタ山の人たちが飢えて不況のドン底にあえいでいた時に、先輩の荒木輝子さんという女性プロデューサーの作った「飢えるボタ山の人々」という録音構成のルポルターージュを、「女性の広場」で、全国的に流してうったえました。これが放送を聞いた人たちの胸を打ち、全国からボタ山の人たちを助けましょうと、それこそ衣類・お金・本などが山のように寄せられました。

「飢えるボタ山の人々」の放送を、母と泣きながら聞きました。と男の方から電話をいただきました。その男の方は富本一校さんの息子さんだったのです。平塚らいてうさんたちと『青鞥』のころ活躍された富本一校さんです。息子さんは当時大映の助監督でした、お母さんと二人で泣きながら聞いて、自分は映画の助監督をしているけれど、この放送に出てきたお弁当を持ってこれない生徒の先生に会ったり、実際にボタ山の子どもたちに会ってきたい。お弁当を持ってこれられない子どもに、自分のお弁当を分けあっている女の先生がいたのですが、そんな先生の話をききたいからということで東京支社のほうに訪ねてくれました。これが私の生涯の師といいますが、尊敬する富本一校さんと出会うきっかけになったのです。富本さんは、もう一線からは退いていらっしゃいましたが、すばらしい女性で、『青鞥』をささえたお一人なのです。

ちょうどそのころ私は女性解放史をドラマタイズして月に一本、TBSと共同制作の番組を作っておりました。女性解放史をやるためには、東大の史料編纂所の松島栄一先生と山本安英さん、——山本安英さんにご承知のとおり、へぶどうの会Vをやっていたらっしゃいましたので、山本さんを中心にして月に一回勉強会をしながらそのテーマを決め、本を書いて役者を決めてドラマタイズしてやる。ですからそのころのRKBは私にとって大学だと思っていました。大学に行っていないというコンプレックスもとても強かったのですが、RKBは私の大学みたいなもので、入ってから勉強しながら作りながらというような番組作りができました。

そのころ最も感動的な取材で、自分でも大変印象に残っているのが第一回母親大会です。第一回母親大会のことは

私のたくさんな取材の中で強烈な印象を残しているのですが、それは昭和三十年六月九日、東京の豊島公会堂でした。その第一回母親大会で呼びかけられた評論家の丸岡秀子さんの言葉がとても印象に残っておりますので、ここでご紹介します。

「私たちは私たちのかけがえのない跡とりの命と運命を、今までは自分の手で左右することができませんでした。しかしこれからは私たちの手で、私たちの息子たち娘たちの生命や運命を左右する時が来たと思います。そのために私たちは今まで伏せていた顔を上げたいと思います。忍んでいた声もあげたいと思います。よしその声がどんなに震えておりましても、胸がドキドキしておりましても、声をあげようではありませんか。」

この呼びかけで集まったお母さんたちは、今でもありありと覚えております。全国のいろいろな基地で闘争している人とか、子どもを売りに出さなければ食えないという貧しいところのお母さんとか、本当にいろいろのお母さんが集まって豊島公会堂でムシロを敷いて、みんな来て泣いて、泣いてばかりでなく本当に訴えました。そのお母さんたちの「命を産み出す母親は命を育て守ることを希みます」という、これは母親大会の有名な言葉ですが、ごくあたり前の言葉の中に自分たちのいろいろな状況を訴えるそのお母さんたちの力に、私は圧倒されました。

昭和三十年の第一回の大会宣言、「私たちは団結の力を知りました。もはや一人一人ばらばらの弱い女ではありません。私たちはどこにあってても日本母親大会の名に於いて勇氣を持ち会いましょう」を取材しながら、私はポロポロ涙をこぼしました。

その当時のデンスケ、——デンスケというのは横山隆一の漫画のデンスケからとった愛称の携帯用録音機で、十キログラムありましてかなりの重さですが、私たちはどこに行くのにもそれをしょって取材して歩きました。当時、朝日の「ひととき欄」などを中心に「投書婦人」というのが流行していました。いろいろな人たちがペンをとつてものを言うという時代だったのですが、母親大会に集まった人たちは、投書するという手段、ペンで書くということはできないけれど、しゃべるのならという、つまり庶民の、理論になる前の素朴な感情があふれており、それをそのまますくい上げられる、それがデンスケでした。ですからマイクを持って飛び出して行っているいろいろなお母さんたちに話を聞きますと、本当に気負わないふだんの言葉で、生活の実感に満ち満ちた言葉が拾えました。まあ取材者側からすると「いただける」わけですね。逆に私は取材の中でお母さんたちのインタビューなどすることで教わったことがす

ごくありました。この母親大会の取材は、民放祭の番組活動の部門賞というのをいただきました。

その後昭和三十二年に、当時私は報道に移っていましたが、私の仕事の中でも忘れられない一つの大きな思い出になったことが起きました。興安丸の最後の引き揚げの取材で、民間放送の代表特派員に私が選ばれたことです。そこで、さっきお話ししましたデンスケを、中国で故障するといけなからと二台持って行き、テープも五十本持って行きました。大きなトランクで、「中国に嫁に行く気かよ」と言われたほど、それはもうすごい勇ましい格好で行ったのですが、この中国の取材でも、忘れられない思い出がいっぱい出来ました。

なぜ私が女性特派員に選ばれたかと申しますと、いま、中国の残留孤児の問題などたくさんありますが、私たちがらしい年代の日本の女の人で中国にいたのは、いわゆる旧満州がほとんどで、命を助けてもらうために中国人と結婚した人がいっぱいいる。そしてその、命を助けてもらうために結婚した中国人との間に出来た子どもがいるわけですね。その子どもを日本のおじいさんおばあさんに一目見せたい、だから一時里帰りしたい、その一時里帰り婦人を、子どもも含めて千人ぐらい乗せて来ること、それがその興安丸最後の引き揚げの一番大きな目的だったのです。乗せる人たちの割合いから言っても、そういう婦人子どもをたくさん乗せて来る船なら婦人記者がよからう、ということので私が選ばれたのだと思います。

そのころはまだ中国の撫順という所に戦犯収容所がありまして、そこに日本人の「戦犯」が三十九人残っております。その家族が中国で面会をするため、その人たちを往きがけに乗せて行き、それから帰りには一時里帰り婦人とその子どもたちを乗せて来る、その二つの目的がありまして特派員に選ばれたわけです。撫順に行って家族の人と戦犯の人とご対面も全部デンスケで採り、それを持って北京放送局へ帰って、北京放送から出ている日本向け放送にその様子を出す、それがあなたの取材の第一の目的だということを、国を出る時に言われましたから、私はもう一生懸命に北京放送に出すための録音を採りました。それで北京放送から、「日本の皆様今晚は」と、国内では一回も自分で放送したことないのですが、北京行っってはじめて日本向けの放送をしました。帰って来ましたら報道の仲間が、「百万ドルの持参金」と書いた袋に、私の北京から放送したのを録音したテープを入れてくれておりまして、本当にうれしかった思い出があります。

その時に、北京放送の婦人プロデューサーで陳眞さんというすばらしい女性がいまして。私より三つ四つ年下で

すが、日本の女学校にいらしたものですから日本語はとても美しいし、日本向けの放送をやっていました。その方と会い、それと一時里帰りをしたくてもできないご婦人が一人いて、お父さんが小倉出身の方だったので小倉のお父さんお母さんの声を録音して声の便りとして持って行き、沈陽——元の奉天ですけど、沈陽のホテルでその斉木アヤメさんという人にお父さんお母さんの声を聞かせました。そこで今度は、お父さんお母さんに対してご自分の声と、中国の人との間に出来たお子さんたちは全然日本語ができませんか毛沢東万歳か何かの唱歌をうたって、私はその録音を採って持ち帰りお父さんお母さんに聞かせました。

この斉木アヤメさんというのは、その後帰国してから五回くらいにわたって、自分の子ども五人と旦那さんと孫と全部で十二人の人を次々に小倉に呼んで、今は全員小倉に引き揚げて来ておられます。その方と私は昭和五十七年に二十五年ぶりに再会致しました。

斉木さんは文化大革命などでもう本当に苦勞して、五人も子どもがいるということだけでも大変なんです、そういう苦勞で、私と同じ年だったのですがすっかり老けて、もう本当にご苦勞のあとがにじみ出ていました。が、その彼女の両肩にご主人と子どもと孫と全部引きつれて中国から帰って来られた、そういう状況を見ても、戦争の傷あととか、戦争はまだ終わってないということを痛感いたしました。この斉木さんご一家の苦勞とか最近の残留孤児の問題など、そういうことを思うと、私はまだまだ戦争は終わってないと思います。

その中国での取材の後に六〇年の安保がありました。六〇年安保は昭和三十五年なんというものでなくて六〇年です。すね。一九六〇年安保のことも忘れられないことです。

デモで歩いておりました私のすぐ前を新劇の人たちが歩いておりましたが、新劇の女優さんたちのところに長い棒杭を持った右翼の人たちが襲いかかり、目の前で女優さんたちが血だらけになるという状況にも遭いました。樺美智子さんが亡くなった時にも私たちはデモをしておりました。あんな大きな時代の流れの中に身をおいて、しかも報道者であるということ、歴史的な時代の流れが強烈にからだに心に入っています。

このあと、テレビの編成、番組宣伝の仕事をや、昭和四十三年に福岡の本社に転動してまいりました。「リビンググショー」という婦人のための午後のワイドショーをずっとやることになりましたが、婦人のための番組なので女性ディレクターがいるほうがいいから来てくれないかということで本社に転動になったのです。

(つづく)

## TOPICS / とびつくす

◆現在以上の長時間労働に！ 女が働けなくなる労基法改悪答申

不況下、労働時間短縮の方向が出されるという予測も伝えられた労基研答申は、目標として週四十時間労働を掲げながら、当分は「政令で四十六時間労働」という羊頭狗肉の案をぬけぬけと提示しました。かねてから問題の年間総残業時間規制の歯止めもつけず、時間外割増率も今までどおり。しかも驚くべきことに、三か月平均で枠内に納まるのなら一日十時間労働も認めるといふ「変形労働時間制」を打ち出しました。たとえば仕事量の少ない一月を四十時間、二月を三十二時間労働にすれば、十二月は四十八時間労働でもOKという、まさに企業にとって都合の良い「改正」。さらに、将来目標も大企業は週四十時間、小企業は四十四時間、仕事のない時間を持つ零細企業は「待ち時間」を労働時間から除外してもよいという企業優遇方式ですから、あいた口がふさがりません。女の大部分は組合もない零細・小企業でしか働けないのが現実なのに、これでは全くの「女殺し」「改正」。

◆鉄連も鳥取の女教師も勝訴

十二月四日、各紙の夕刊トップを「女勝訴」の記事が大きく飾りました。鉄連は「職務の差を理由とした賃金格差は憲法十四条に反し無効」、鳥取県教委は「女教師に対し男性より若い年齢で退職を勧奨し、

拒否すると退職手当優遇措置を適用しないのは憲法違反」と、それぞ

れ六十九万円、二千三百万円の損害賠償を命じました。共に新判例。

◆「特集」は、三月までにお届けします

長い間不眠不休で働き続けてきた△あこらV事務局。今年は何よりも体力の回復を、との温かい声援にはげまされて努力いたしました。『ナイロビ号』をお送りしたきり、『特集』をお送りできず申しわけありません。三月までに何とか特集を……と準備中です。この費用は86年度分会費に含めます。

◆一月十四、十五日「第二世代の△あこらVへ」運営会議

オールナイトで語り明かします。場所は八丁堀の勤労福祉会館。参加ご希望の方はお早めにご連絡を。

◆不良△女の「深夜のおしゃべり会」にどうぞ

♀に「美」と入れるか「若」か「熟」か「悪」かは好み次第。少し趣きを変えて、夜の九時から朝の始発まで、お好みの時間に参加自山の「深夜のおしゃべり会」を開きます。一月二十四日(土)、場所は△あこらV読書室。三百円程度の△の食品を持ち寄って、ミッドナイト・トークをしませんか。思わぬ出会いも期待しながら。

お問い合わせは(03) 354-3941へ。

### 【編集後記】

幌延、佐世保に続いて今月は下関から人工島の記事。日本列島は知らぬまにビョーキがどんどん進行している……。

高額所得者減税の見返りに、老人保健、同和对策等、次々にカットされ、「戦後政治の

見直し」は着々と進んでいます。来年はどんな大変なことが……と、心配です。

今年はついに特集を出せなかった『あこら』ですが、春風が吹くまでには、遅ればせながら「今年度分」をお届けする予定です。

いろいろご注文も多いことと思いますが、来年度もどうか引き続きご継続いただきたく心からお願ひ申し上げます。

では皆様お元気で、よいお年をノ

(H)